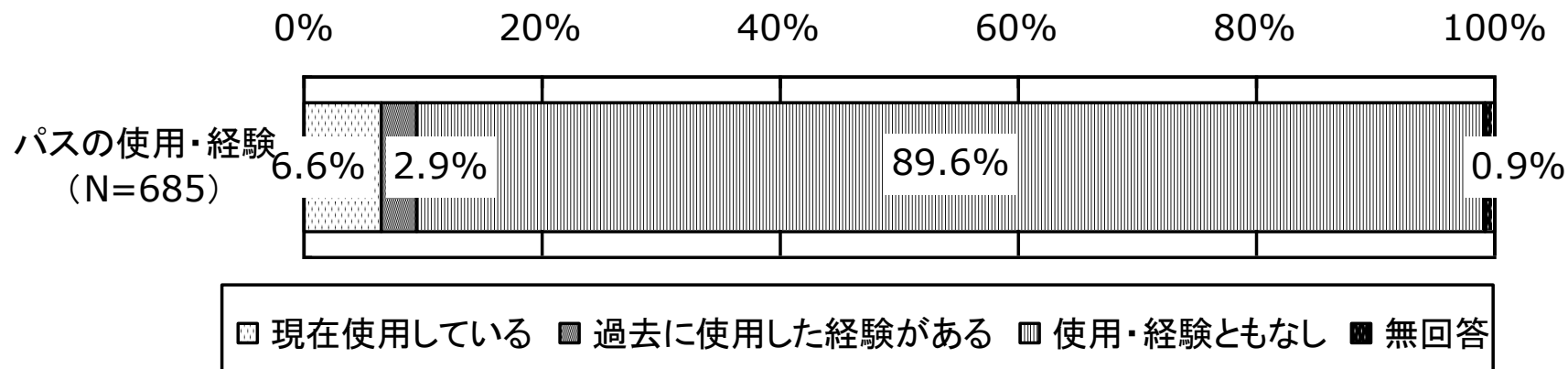
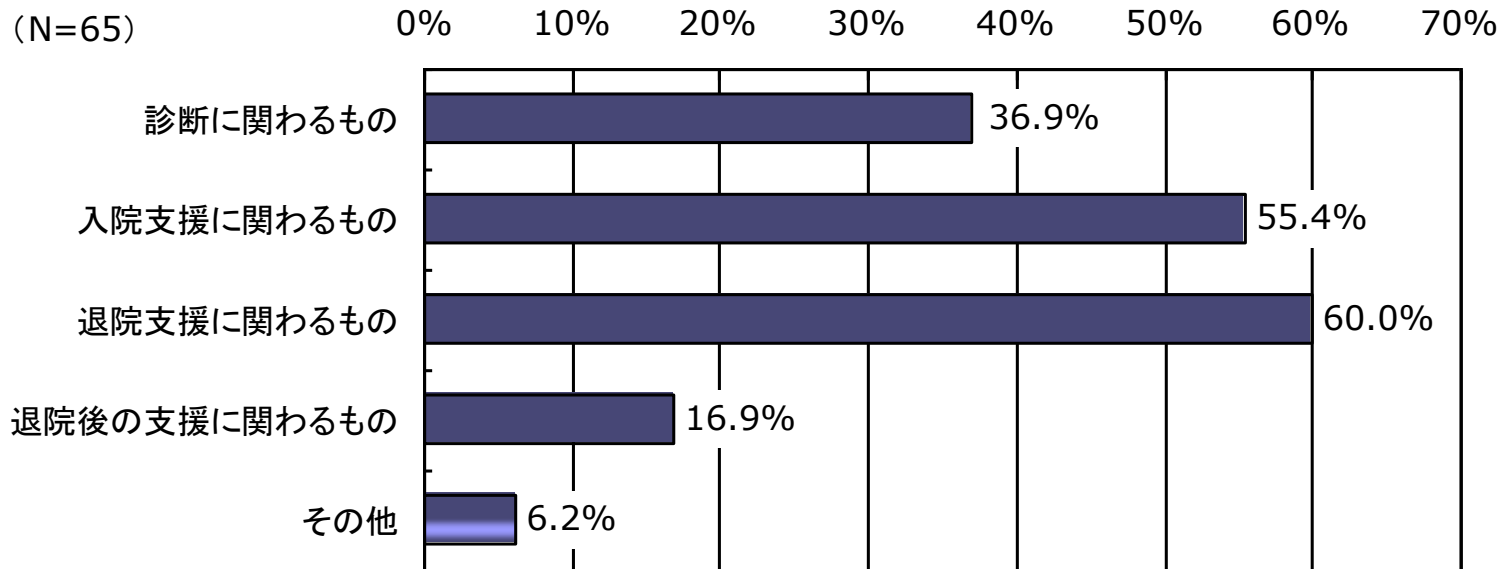


## 問1 認知症クリティカルパスの使用・経験の有無

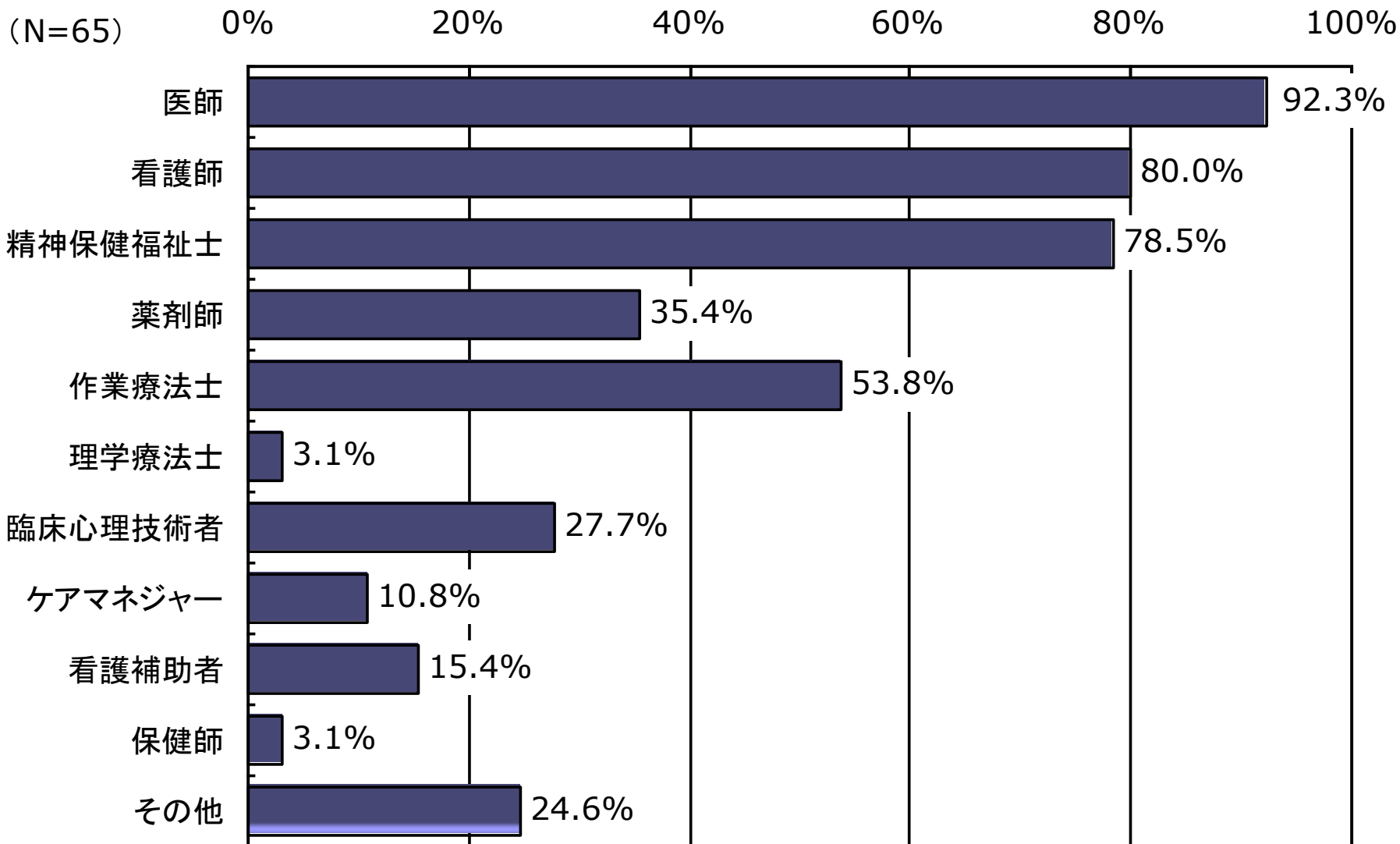


## 問1-a クリティカルパスの種類※

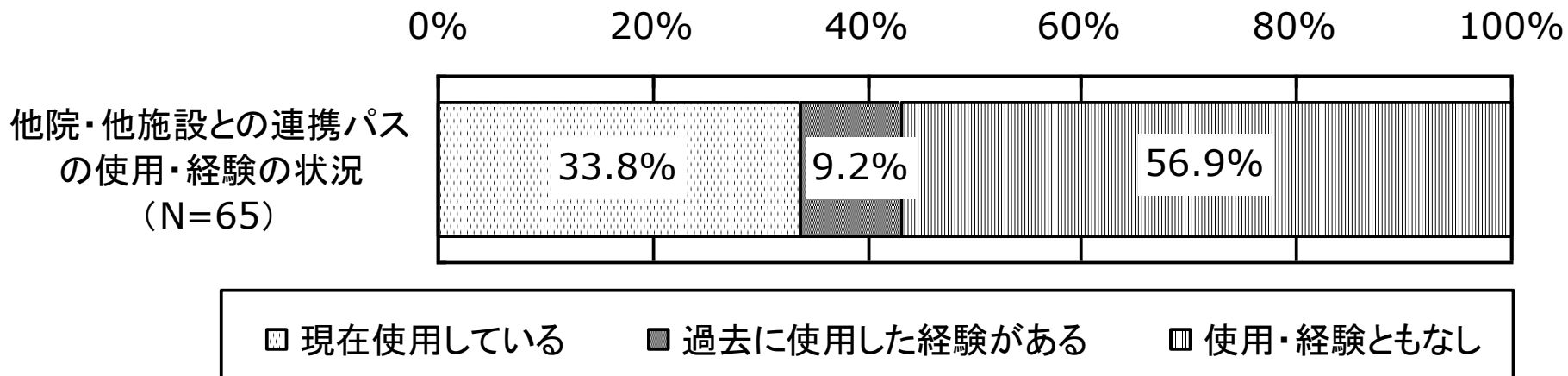


※ 「現在使用している」、「過去に使用した経験がある」と回答した65施設が対象

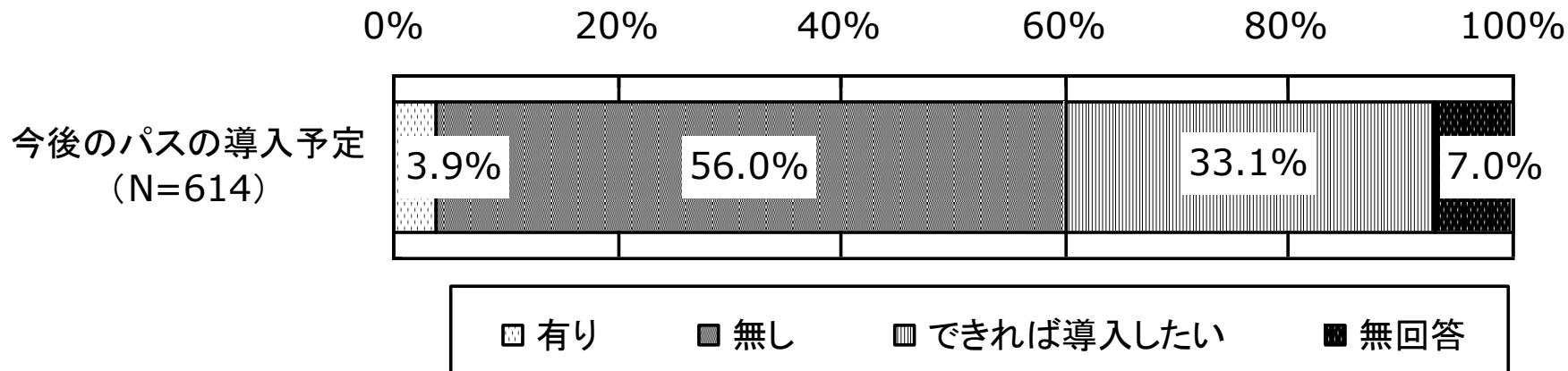
問1ーb クリティカルパスの作成や運用に関与する職種(あてはまるものすべて回答)



問1-c 他院・他施設との連携パスの使用・経験の有無

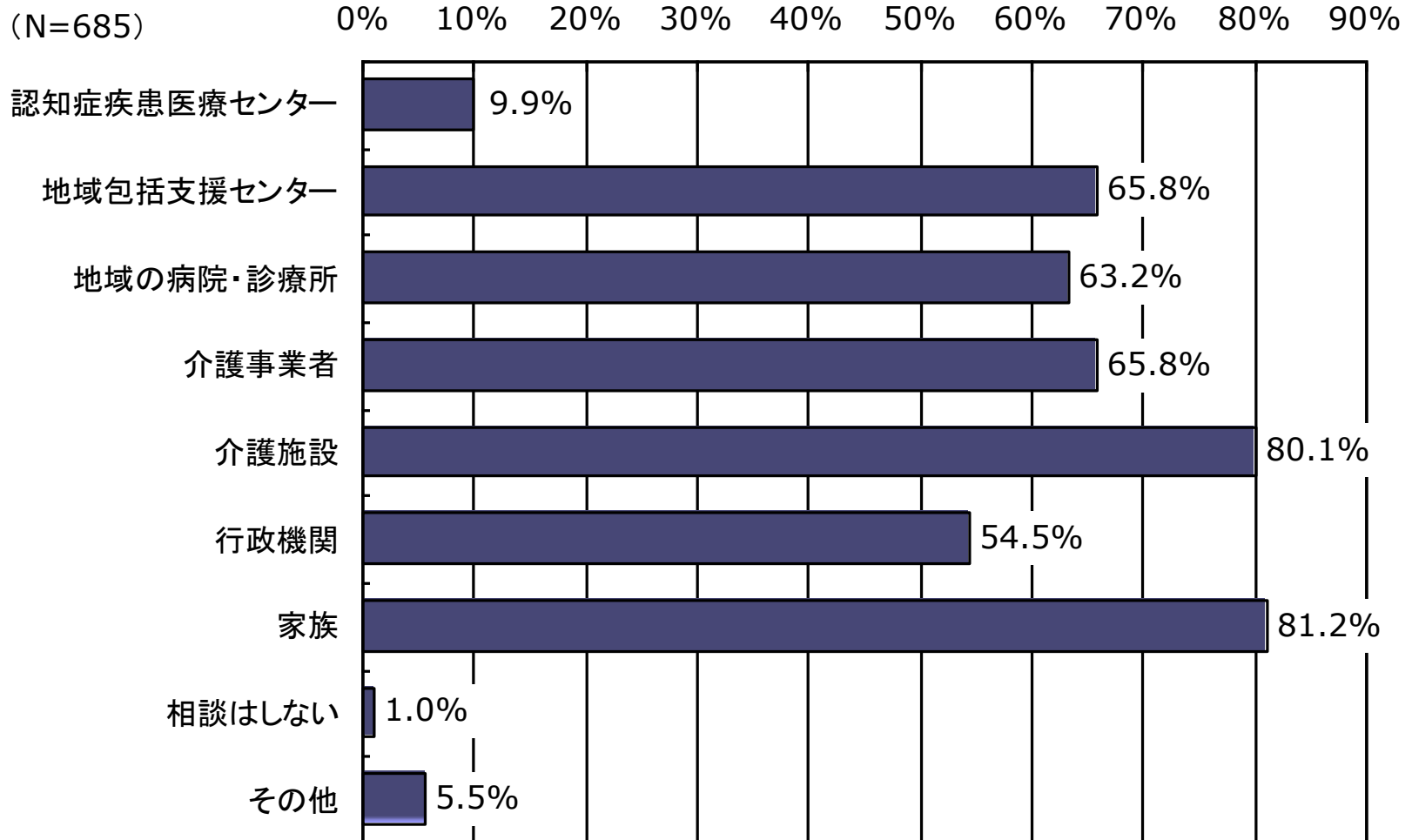


問1で、「3. 使用・経験ともになし」と回答した施設について、今後のクリティカルパスの導入予定の有無

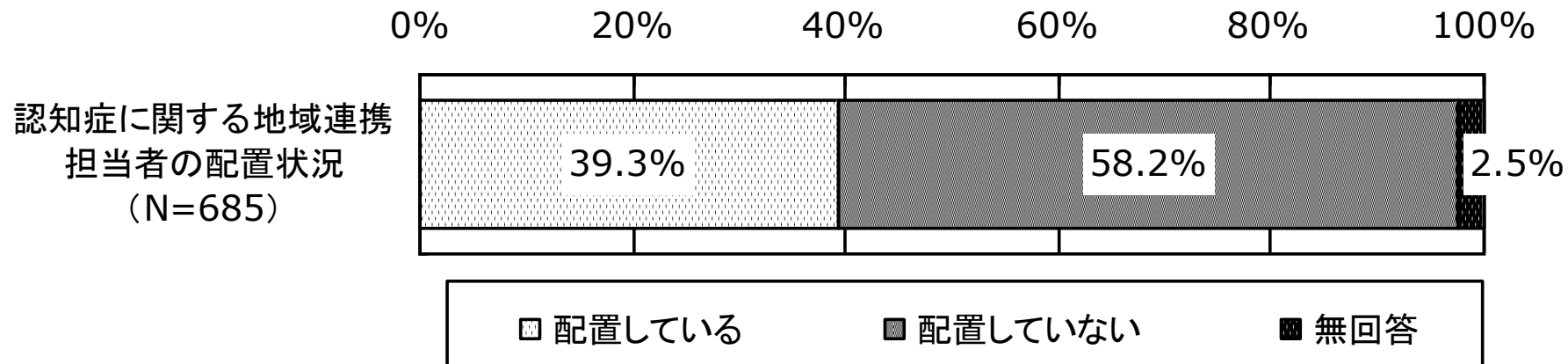


# 地域との連携状況

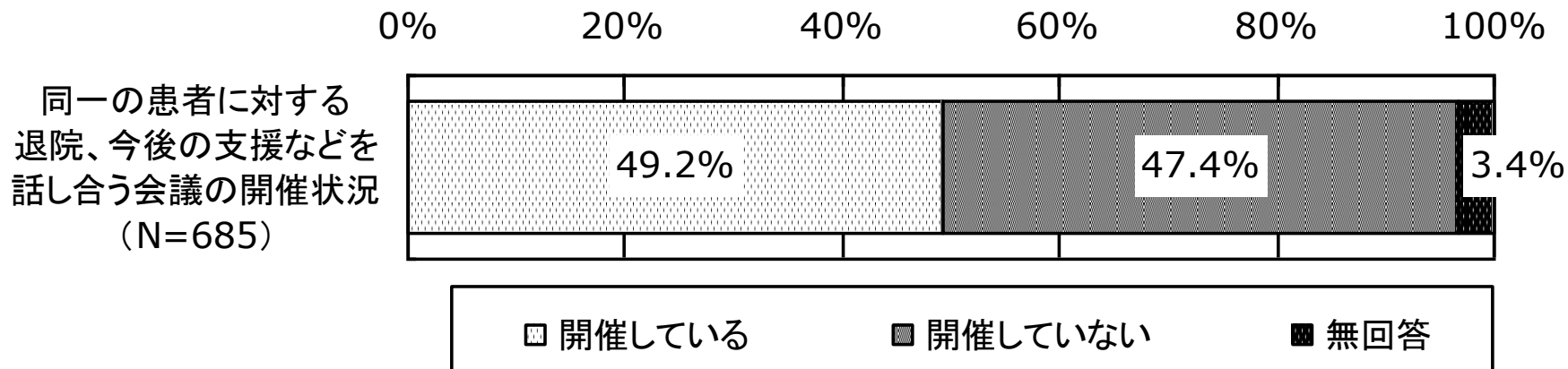
## 問2 退院先選定の際の相談先(あてはまるもの全て)



### 問3 病院内の認知症に関する地域連携担当者の配置の有無

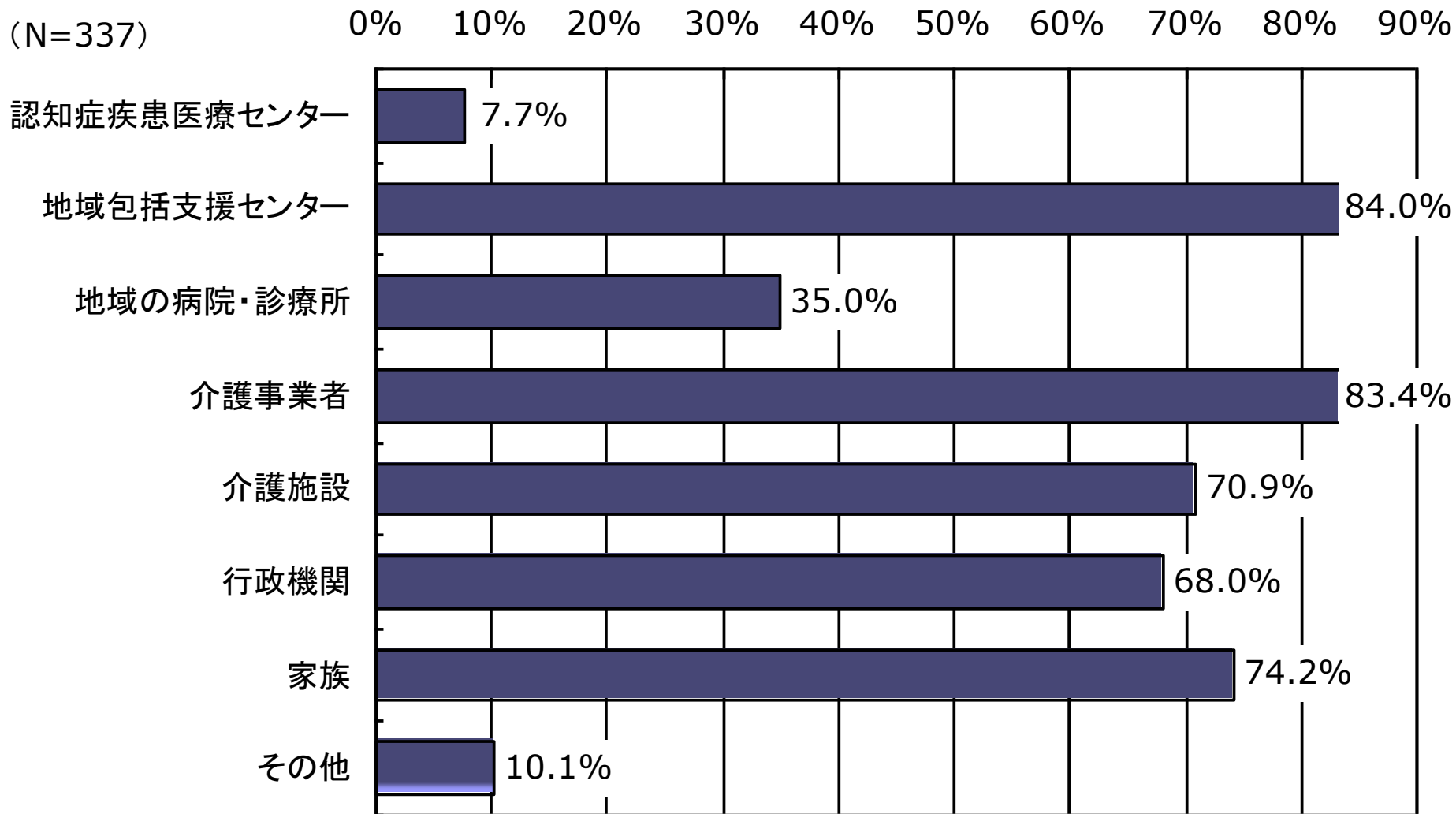


### 問4 地域包括支援センター、地域の介護事業者等が一同に参加し、同一の患者に対して退院、今後の支援等を話し合う会議(地域連携会議など)の開催の有無



問4-1 問4で「開催している」と回答した施設について、会議に参加している事業者等(あてはまるもの全て)

(N=337)



# 認知症の退院支援・地域連携パスに関する論点

- 認知症の地域連携パスについては、導入している施設は1割未満であったが、導入を希望する医療機関は3割強であった。
- 「使用している・使用経験がある」との回答約1割のうち、パスの種類については、「退院支援」のパスが最も多く、全体の7割であった。

また、「他院・他施設と連携あり」については、その約3割であった。

- 地域連携パスの作成や運用に関与している職種をみると、医療機関に配置されている職種に比べ、医療機関に配置されていない職種（ケアマネジャー）では約1割であった。
- 同一患者に対する退院後の支援等のための会議については、開催しているが約5割であった。また、その会議に参加している事業者のうち、「認知症疾患医療センター」、「地域の病院・診療所」の割合は、それぞれ約1割、約4割であった。

以上の状況等を踏まえ、退院支援・地域連携パスの推進について、どのように考えるか。